

地球の将来

最近のニュースの中で、国連環境計画（UNEP）「ナイロビ会議」は、日頃農林業に関係をもつ一員として、その動向と国際的な実態を知る上で注目に価するものだった。

日常眼に触れる技術伝達の速さ、その技術が現実のものとして駆使するだけの知識レベルと経済的機構を備えたわが国の農業。背景にある減反と食糧自給力の低さという矛盾すらも見失いがちなわが国の現況を通して見る眼に、報ぜられる途上国の対比はあまりにも貧しい。

わが国では、作物と競合する雑草とのたたかいが、収量を確保するための重要な作業になっているが、草すら生えないで、砂あらしに後退を強いられる地域が年々増加しているという中国大陸の話を聞くと、雑草に悩まされる国土が貴重なものだとしみじみ感じる。

FAOの予測によると、途上国の森林は毎年1,100haずつ消滅してゆくという。急増する人口をまかなうために、森林を焼き払って農地に転換し、これが砂漠化を地球的規模ですすめる原動力になっている様子だ。食糧だけでなく、燃料としての植物の収奪も無視できない。

人口60億に達する2000年に、遺伝子組替えなど先端的技术で一挙に解決を期待するのは甘く、現実には地域差、民度差、宗教問題、経済力などさまざまな要因を含めて、多様化した技術指導が要求されるだろう。われわれは、幅広い対応ができるように、除草剤・化学調節剤の面で、地道な技術蓄積を心がけてゆかなければならない。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
三共株式会社専務取締役・農業事業部長 上井忠太郎〕

目次 (第16巻第4号)

1981年国際柑橘学会議を終えて……………2

＜果樹試験場興津支場長 西浦昌男＞

果樹園における下草管理……………9

＜果樹試験場興津支場 鈴木邦彦＞

1. 下草が生えていることによる不都合……………9
2. 下草が生えていない場合……………10
3. 雑草管理の考え方……………11
4. 草刈りや草刈りは重労働……………11
5. 除草剤による雑草管理……………12

果樹園における除草剤連用園土壌の変化……………12

＜佐賀県果樹試験場 岩切 徹＞

1. はじめに……………12
2. 草量の変化と還元される養分……………13
3. 土壌動物に与える影響……………14
4. 土壌微生物と微生物活性……………15
5. 土壌の理化学性の変化……………17
6. 果実収量および品質……………19
7. おわりに……………19

昭和56年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………22

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

新除草剤・調節剤

- ・ジクロルプロップ液剤……………24
- ・MCPB乳剤……………25